

平針記念クリニック

鍋島 山崎

邦浩 恵美子
院長 師長

取材・文

読売新聞中部支社 前編集委員
医療コーディネーター

片岡 太

充実した透析医療を目指して 平針記念クリニック開院

社会医療法人・名古屋記念財団平針記念クリニック(名古屋市天白区天白町大字平針字大根ヶ越199番地、鍋島邦浩院長)が1月にオープンし、透析医療に積極的に取り組んでいる。

この平針記念クリニックは、名古屋記念病院(名古屋市天白区平針、藤田民夫院長)にあった透析外来部門が独立し、透析医療に特化したもので、最新の透析機器を導入するなどより充実した透析医療を目指している。鍋島初代院長と山崎恵美子師長に話を聞いた。

Q.平針記念クリニックは1月に開院しましたね。

鍋島院長／はい、1月2日に開院しました。

Q.正月2日に開院したのですか。

鍋島院長／透析の患者さんは、正月でも、盆休みでも、また台風であろうが、大雨であろうがそういったことには全く関係はなく、よほどのことがない限り決められた曜日に週3回必ず血液透析を受けていただくことが必要です。開院日が正月の2日になったのは、たまたま1日が日曜日だったため、1日が平日であれば元旦に開院しています。

Q.そうすると当然医師も出勤ということになりますね。

鍋島院長／もちろん私たち医師をも含めて看護師や事務の方も出勤しています。なによりも患者さんに安心して透析を受けていただくための万全の体制は取っています。

Q.透析機器は、最新で、最先端の医療機器を導入していますね。患者さんにとってどんなメリットがありますか。

鍋島院長／透析機器は日進月歩で、そうした進んだ透析機器を医療の現場に導入し、患者さんに提供することが透析治療の

成績向上に結びつき、さらには、患者さんの生活の質(QOL)を高めることに直結します。また、透析をするためには事前にいろいろ準備をしなければならず時間がかかります。しかし、この新しい透析機器だとその準備に要する時間がかなり短縮されるなど、効率良く透析ができるようになりました。これは患者さんにとっては一つのメリットだと思います。

Q.患者さんの送迎にも力を入れていますね。

鍋島院長／名古屋記念病院で透析を受け